

9/1 朝日

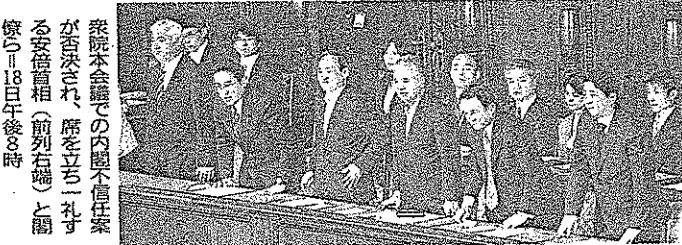
# 政権安保に突進

## 野党「違憲」意地の抵抗

戦後の安全保障政策を大転換する安保関連法をめぐり与野党は、衆参両院の本会議場を舞台に最後の攻防を繰り広げた。憲法違反の指摘が残る中、政権は数の力を背景に成立へと突き進んだ。内閣支持率下落などの「代償」を覚悟し押し切る。成立を阻みたい野党は、内閣不信任決議案という切り札を出し、長時間の演説で採決を引き延ばすなど戦術を駆使した。「平和国家の歴史に汚点になる」（民主党筋）として今後も抵抗することをやめない。（●面参照）

▼メンツ  
参院審議が最終局面を迎えた十八日午後、安倍晋三首相は内閣不信任、問責の決議案採決で衆参の本会議場のひな壇に着席した。民主党は、最後に行う予定だった委員会採決を採決し可決、本会議に緊急上程された中川参院議院運営委員長の解任決議案を参院に提出。中谷防衛相問題決議案を参院に提出。与党は、各党の討論時間を制限する動議と、淡々とした表情で一礼。山崎参院議長の不信任決議案を参院に提出。内閣不信任決議案を衆院に提出。鴻池氏の問責決議案を参院に提出。

16日 午後～17日	参院本会議室前などに議員が押しかけ、午後6時予定だった開会を阻止
17日午前 午後	鴻池特別委員長の不信任動議を提出。午後に再開された特別委員会で民主党議員が45分間の趣旨説明
18日午前 午後	主・維新、共産など野党五党が提出した内閣不信任案は終始一枚岩だったわけではなかった。「憲法」「戦争法案」との反対世論が大きくなりとなりとなる中、公明党の一部がひるみ、採決を伸びすぎたびにつかませた。鴻池氏は自民党幹部に「必ずやり遂げるから、任せてくれ」と伝えていた。



参院本会議での内閣不信任案が否決され、席立ち一礼する安倍晋三（前列右端）と鴻池氏（18日午後3時）

▼長い演説  
水準の30%前半になるだろう。来夏の参院選で討ち死ににする同志も出でてくるかもしれない。「この法案には多くの人的資源を投入した。必要な政権幹部はつぶやいた。

だつたと歴史が証明していくれるとい信じるしかない」。政権幹部はつぶやいた。

長代理は、国会周辺の反対集会でマイクを握り、「特別委員会の状況を覚えておいでほしい。われわれは民主主義を取り戻す戦いを続けた」と声を強めた。

て駆けつけたといつ高校二年生浦直さん（左）は、学校で、民主主義は少數意見に自分が国会の民主主義なも耳を傾けるものだと教わった。「数の力で強引に自分たちの意見を押し通すのが国会の民主主義なのか」。参院特別委員会の強行採決をテレビで見て、じつとしているのか？」と強調した。

（小形佳奈、中沢誠、佐藤

り論）がひそかに唱えられた時期もあった。同党議員は「反対の声がこんなに充満するとは全く想定してなかつた」と打ち明けた。

こうした悲鳴にも関心を示さなかつたのが首相だ。

日本国内に先立ち今国会での成立を華々しく打ち上げたことがあつたのは否定できない。自民党筋は「メンツ」にしたわる首相周辺の声に、先送り論はかき消された」と説明する。

五月二十六日に衆院から始まった安保審議。政権に

（小形佳奈、中沢誠、佐藤

▼犬の写真  
五月二十六日に衆院から始まった安保審議。政権に

（小形佳奈、中沢誠、佐藤

（小形佳奈、中沢誠、佐藤</